

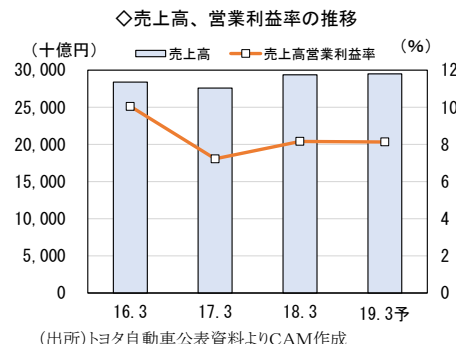
企業ニュース トヨタ自動車

(東証1部：7203) <http://www.toyota.co.jp>

作成者：奥村義弘

次世代自動車の開発に力を入れる

1937年設立。豊田佐吉氏が創業した豊田自動織機製作所をルーツとする。現在ではフォルクスワーゲングループ、ルノー・日産・三菱連合、GMなどと並ぶ世界最大級の自動車メーカー。2015年に新しい設計開発思想「TNGA（トヨタ・ニュー・グローバル・アーキテクチャー）」の車両販売を開始し、商品力の向上と原価低減を同時に実現する「もっといいクルマづくり」を前面に出した経営を進めている。次世代車両の開発を幅広く手掛け、全固体電池など次世代電池の実用化にも積極姿勢。近年では外部リソースの取り込みにも前向きで、マイクロソフトとはコネクテッドカー、ソフトバンクグループとはモビリティサービスの新会社の設立を発表している。



コスト増要因を乗り越え高い収益力を維持

19.3期・第2四半期（4-9月）の連結業績は売上高が14兆6,740億円、前年同期比3%増、営業利益が1兆2,618億円、同15%増。国内では9月の自然災害による生産減の影響があったとみられるが、減益要因を車種構成の改善や販売増など営業面の努力で跳ね返す好決算であった。特に、北米ではタコマ、ハイランダーなどのライトトラック系、欧州ではヤリス、C-HR、RAV4などのハイブリッドモデル、アジアではインドや中国、タイなどでの台数増が寄与した。

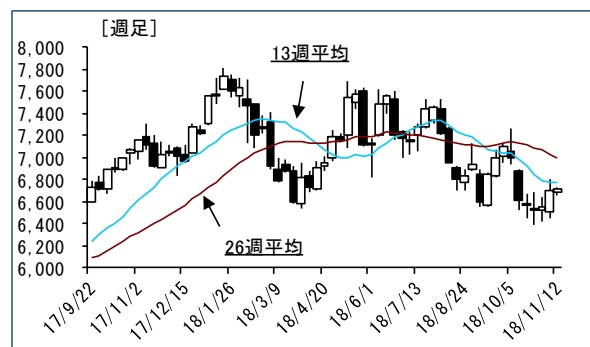
19.3期の会社計画は、売上高が29兆5,000億円、同横ばい、営業利益が2兆4,000億円、同横ばい。営業利益で期初計画を1,000億円上方修正した。為替前提を1ドル=106円→1ドル=110円、1ユーロ=126円→1ユーロ=130円に見直しており、為替のプラス影響1,250億円が大きい。下期は新興国通貨の下落影響や原材料価格の上昇などがマイナス要因となるが、値上げや堅調な新車販売などが寄与しよう。北米も新車販売が好調で販売奨励金は低位でコントロールできよう。通期の連結販売台数は890万台を据え置いており上振れ余地がある。厳しい環境下だが、売上高営業利益率は8.1%と高水準の収益力を維持する計画で、底力を感じる。

[株価動向・投資判断]

次世代自動車の開発に資金を振り向けるが、会社側では取得株数4,200万株、2,500億円を上限とする自社株買いも発表している。株主還元面でも評価できる企業と言えよう。

<7203 トヨタ 業績: 米国基準> [今期予想の配当金は日経予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	27,597,193 (▲3)	1,994,372 (▲30)	2,193,825 (▲26)	1,831,109 (▲21)	605.5	210.00
18.3	29,379,510 (▲6)	2,399,862 (▲20)	2,620,429 (▲19)	2,493,983 (▲36)	842.0	220.00
19.3 予	29,500,000 (▲0)	2,400,000 (▲0)	2,720,000 (▲4)	2,300,000 (▲8)	793.2	220.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2018/11/12)	6,709 円
年初来高値(高値日)	7,806 円(18/1/18)
同 安値(安値日)	6,396 円(18/10/25)
予想 P E R (19.3 予)	8.5 倍
1株株主資本(PBR算出用)	6,800.1 円
P B R	0.99 倍
予想配当利回り	3.28 %
(1株当たり配当金年220.00円)	
R O E (18.3)	13.8 %
発行済み株式数	331,010 万株